

里沼の息づく 次世代へ安心をつなぐ 暮らしやすいまち 館林



祈りの沼 茂林寺沼



実りの沼 多々良沼



守りの沼 城沼



令和元年度 日本遺産認定

里沼 (SATO-NUMA)

「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化



館林市第6次総合計画

(第2期館林市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略)

【概要版】



「里沼の息づく 次世代へ安心をつなぐ 暮らしやすいまち 館林」を目指して



館林市は昭和29年の市制施行以来、館林市総合計画に基づいた施策を着実に実施し、まちづくりを行ってまいりました。

一方で、平成23年度からの第5次総合計画における、この10年間は、直前の東日本大震災をはじめ、全国各地で自然災害が多発した期間でした。加えて、新型コロナウイルスなどの感染症等が猛威を振るい、国内外を大きく揺るがしております。このような危機に際しても、強くしなやかに立ち上がることができる、安心なまちづくり、社会づくりが、まさに求められています。

さらには、日本全体として人口減少が進み、本市においても減少傾向が避けられない状況です。こうした人口構造の変化に対応し、本市や各事業者等が持続できる一定の人口規模を維持していくことが求められています。新型コロナウイルス感染症のパンデミックを契機に、新たな生活様式や働き方が見直され、東京一極集中の是正も、改めて問われております。

そうした多くの課題を抱える中でございますが、令和元年に本市の「里沼」が日本遺産に認定されました。多くの沼を母胎に持つ館林が、長い歴史をかけて築いてきた、暮らしと自然の調和した沼辺文化が、まさに評価されたものです。四季折々の草花に彩られ、美しい鳥のさえずりに耳を澄まし、米麦の田園風景に目を潤されながら、館林の人々は、日々、自然に心を抱かれております。先人から引き継がれてきた、この豊かな環境を次世代につないで行くことこそ、今を生きる私たちのミッションと言えます。

これらの課題や目標を市民や事業者の皆様と共有し、共にまちづくりを行っていくために、10年後の目指すべき将来都市像を「里沼の息づく 次世代へ安心をつなぐ 暮らしやすいまち 館林」とし、館林市第6次総合計画を策定しました。

本計画は、将来都市像を実現するために、5つの基本目的の下、分野ごとに30の施策目的を掲げています。また、人口ビジョンに掲げる将来展望人口を維持するために、「第2期館林市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」と一体的に策定しています。

今回発行の概要版では、各分野の5年後の目標値を明確に記しました。様々な方々が、それぞれの持てる力や立場を生かし、協働、共創、公民連携により進めることが、目標値を実効性の高いものとし、結果として市民一人一人の暮らしやすさや満足度向上につながるものになると考えます。将来都市像や基本目的の実現に向け、皆様には、ご理解ご協力を賜りますよう何とぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、本計画策定に当たり、貴重なご意見、ご提言をいただきました市民の皆様、熱心にご審議いただきました総合計画審議会委員の皆様をはじめ、ご協力をいただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。

令和3年3月

館林市長 須藤和臣

Q 総合計画って何だろう？

A 総合計画は、本市が将来も健全に発展していくための方向を示すものです。基本構想、基本計画、実施計画により構成され、本市が目指す将来のまちの姿をはっきりと示し、それを実現するための様々なまちづくりの方向をまとめています。期間は令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間です。

Q 総合計画は誰がつくったの？

A 総合計画は、これからのまちづくりを市民の皆さんと共に進めていけるよう、皆さんから意見を聞いたり、皆さんと話し合ったりして、本市の未来についての考えをまとめ、みんなで一緒につくりました。

Q 総合計画は何のために必要なの？

A 総合計画は、本市が目指す将来のまちの姿を市民の皆さんと共有し、みんなが同じ目的に向かって取り組んでいくために必要となります。誰もが暮らしやすいまちにするためには、様々な分野や地域の皆さんが、それぞれの持てる力や立場を生かし、みんなで共にまちづくりを進めることが大切です。



人口の推移

人口のこれまでとこれから

本市の人口は、平成17(2005)年までは増えていき、一番多い時で79,454人いましたが、その後は日本全体の少子高齢化の流れと同じく減少傾向となり、平成27(2015)年には76,667人となっています。今後さらに人口減少は進んでいき、令和42(2060)年には人口44,488人まで減ると予想されています。



将来のまちの姿はどうなるのだろう？

これからも人口はどんどん減っていくことが予想されています。暮らしにはどんな影響が出てくるのでしょうか。これからの様々な課題に的確・迅速に対応していくためには、共通の目的となる将来のまちの姿、つまり将来都市像が必要です。

将来都市像

将来都市像は、基本構想に定めた、総合計画として実現を目指す館林の将来のまちの姿を表すものです。

里沼の息づく

「里沼の息づく」とは、先人から引き継がれた里沼をはじめとした美しい環境や歴史、文化を、次世代へと引き継いでいけるよう今後も保全するとともに、まちの活性化に生かし、自然と共生していくまちを示しています。

次世代へつなぐ

「次世代へつなぐ」とは、人口減少・少子高齢化といった背景をしっかりと見定め、人口を維持するとともにバランスのとれた自治体経営を行い、本市が継続して発展していくことで、若い人々や子どもたちが安心して住み続けられるまちを示しています。

里沼の息づく次世代へ安心をつなぐ 暮らしやすいまち 館林

安心

「安心」とは、災害時に被害を最小限に抑えて迅速な復旧・復興に対応できるだけでなく、平時にも各分野の弱みを把握・共有して人口問題、環境問題、産業構造の変化に対応できる、あらゆる面において強さとしなやかさを備えた安心できるまちを示しています。

暮らしやすいまち 館林

「暮らしやすいまち 館林」を実現するためには、行政の努力とともに、市民の皆さんの力が必要です。このため、市民の皆さんや様々な団体と、協働、共創、公民連携によるまちづくりを進め、地域の課題を自分ごととして共有し、将来都市像を共通の目的として認識していただくことが大切です。



人口ビジョン

将来展望人口は、 2060年において55,000人

人口ビジョンは、人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すもので、総合戦略の施策を考えるための重要な基礎となるものです。ここには、本市が将来において目指す総人口数である将来展望人口を示しています。国の推計では令和42(2060)年において44,488人になるとされていますが、総合戦略を着実に実施することにより、合計特殊出生率を向上させ、人口の社会増減が同数となることで、55,000人を維持し、持続可能な社会を目指すものです。



体系図

総合計画の構成は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の三層構成になっています。また、「人口ビジョン」に掲げる将来展望人口を維持するための「総合戦略」と一体的に策定しています。なお、「実施計画」は別に策定します。



※ 基本目的は将来都市像を実現するための目指すまちづくりの目的

※ 施策目的は基本目的を達成するための分野ごとに目指すまちの姿



※ 基本目標は将来展望人口を維持するための政策分野ごとに目指す目標

基本計画

基本計画は、基本構想で定めた将来都市像と基本目的を達成するために、分野ごとの施策目的や指標などを示すもので、期間は5年間になります。

I 安全と環境



基本目的 危機対応能力が高く 良好な生活環境で暮らせる 安全安心なまち

自然災害リスクや社会的リスク（犯罪、事故、情報セキュリティ、感染症など）に対しても、危機対応能力が高く、里沼をはじめとした人と自然が共生してきた美しい環境を守りつつ、良好な生活環境を市民とともに築けるまちを目指します。

	分野	施策目的	指標	現状値 (R1年度)	目標値 (R7年度)
01	防災	防災意識や危機対応力を高め、自助・共助・公助が一体となった災害に強いまちになる	自主防災組織の組織率	92.4%	100%
02	防犯	地域と市が連携して、防犯に取り組む安全安心なまちになる	刑法犯認知件数	602件 (R1年)	520件 (R7年)
03	自然環境	人と環境にやさしい快適な生活が送れるまちになる	BOD 数値 (城沼中央の水質)	8.3mg/ℓ	5.0mg/ℓ以下
04	ごみ・資源	ごみを減らして資源を生かす循環型のまちになる	リサイクル率	20.8%	36.1%

Ⅱ 福祉と健康



基本目的 地域で支え合い 生涯健康で暮らせる 幸福感の高いまち

皆で支え合うことのできる社会の実現を目指し、地域における人と人のつながりを構築していきます。さらに、健康寿命を延ばし、多くの人が生涯を通じて活躍できるようになることで、社会全体の幸福感と活力を高めるまちを目指します。

	分野	施策目的	指標	現状値 (R1年度)	目標値 (R7年度)
05	地域福祉	地域で支え合い、誰もが安心して暮らせるまちになる	福祉ボランティア登録者数	461人	556人
06	高齢者	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちになる	コミュニティサロンの件数	39件	45件
07	障がい	障がいのある方誰もが安心して自分らしく暮らせるまちになる	相談支援専門員数	13人	20人
08	社会保障	市民が安心して生活できるよう社会保障の機能が充実したまちになる	特定健診の受診率 (国民健康保険)	37.8%	60.0%
09	健康	心身ともに健康で、いきいきと暮らせるまちになる	かかりつけ医所持率	69.9%	73.0%
10	医療	適切な医療がいつでも受けられるまちになる	たてばやし健康ダイヤルの認知度	33.7%	40.0%

Ⅲ 子育てと学び



基本目的 育てる幸せを感じ 生涯にわたり互いに学び続ける 家庭と文化を築くまち

安心して子どもを産み、自信にあふれる子どもに育てられ、また、誰もが生涯にわたりその個性を生かし学び続け、スポーツにも親しめる環境の整ったまちとして、豊かな心の人々と家庭が、香り高く地域文化を織りなすまちを目指します。

	分野	施策目的	指標	現状値 (R1年度)	目標値 (R7年度)
11	子育て 	社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる	地域子育て支援センター利用登録率	79.4%	85.0%
12	学校教育	自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる	小中学生の豊かな心の育成の達成度	小学校 3校* 中学校 2校*	小学校 11校* 中学校 5校*
13	青少年	心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる	放課後子ども教室開設数	1箇所	6箇所
14	生涯学習	生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる	ふるさとづくり出前講座件数	198件	205件

分野	施策目的	指標	現状値 (R1年度)	目標値 (R7年度)
15 文化	 地域の歴史や伝統、芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる	芸術文化施設における市民1人当たり年間利用回数	2.5回	2.5回
16 スポーツ	 スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる	スポーツ実施率(週1回以上)	31.3%	50.0%

※ 学校評価「豊かな心の育成」の各項目がA評価である学校数

IV 経済と都市



基本目的 都市と自然が調和し 人と産業が躍動する 魅力あるまち

館林は首都圏から近く、北関東の中心的な位置に立地する一方、安らぎを与えてくれる自然環境と快適に暮らせる都市機能の調和が図られています。そうした地理的優位性や歴史と文化を最大限活用し、人と産業が躍動する魅力的なまちを目指します。

分野	施策目的	指標	現状値 (R1年度)	目標値 (R7年度)
17 産業	 新しい産業と既存産業が調和して発展するまちになる	製造品出荷額等	2,842億円 (H30年度)	2,845億円
18 商業	 事業者が元気で活力のあるまちになる	小売業・卸売業の1店舗当たりの年間商品販売額	337百万円 (H28年度)	340百万円
19 労働環境	 生き生きと安心して働ける環境が整ったまちになる	企業ガイダンス参加者数	507人 (H30年度)	(累計)2,500人 (R3年度~7年度)
20 農業	 安全で魅力ある農産物を安定して提供できるまちになる	農業産出額	59.5億円 (H30年)	61億円 (R7年)
21 観光	 多くの人から愛される活力と魅力あふれるまちになる	観光入込客数	1,489,539人	1,650,000人
22 まちの にぎわい	  人が集まり、市民自らがつくる、にぎわいと魅力あるまちになる	遊休不動産の利活用件数	2件	(累計)15件 (R3年度~7年度)
23 土地利用	地域性に応じた土地利用ができていくまちになる	居住誘導区域の人口密度	39人/ha (H27年度)	39人/ha
24 道路・ 交通	 人や物が安全で快適に移動できるまちになる	市道の整備率	38.4%	39.1%
25 居住環境	快適な居住環境で暮らしやすいまちになる	空き家バンク登録物件利活用件数	2件	(累計)20件 (R3年度~7年度)
26 公園・緑地	花と緑に囲まれ、憩いと安らぎのあふれた、ガーデンシティと言われるまちになる	市民アンケート調査の満足度(公園・緑地など緑の充実度)	50.2%	56.2%

V 行政経営



基本目的 公民連携を推進し 地域経営の視点を持つ 持続可能なまち

今や行政は、戦略的な地域経営の視点を持ち、地域や民間の経営主体と、連携、協働によるネットワークの仕組みを構築していくべきです。また、新たな財源の確保、そして経済効果を追求する自治体経営を行うことが必要となります。それらを基本とした公民連携を推進し、持続可能なまちを目指します。

分野	施策目的	指標	現状値 (R1年度)	目標値 (R7年度)
27 市民協働	市民と行政が共創して発展できるまちになる	市民活動に関する問合せ件数	67件	80件
28 人権の尊重	市民一人一人の人権が尊重され、誰もが安心して平和に暮らせるまちになる	国際交流関係事業の参加者数	472人	600人
29 行政活動 	時代に対応できる自立した持続可能なまちになる	経常収支比率	98.2%	95.6%
30 情報の共有 	市政の透明性を高め、誰もがまちへの愛着と誇りのあるまちになる	SNSのフォロワー数	1,520人	4,520人

総合戦略

総合戦略は、本市の人口の現状を分析した人口ビジョンに掲げる、将来展望人口を維持するために、政策分野ごとに目指す基本目標や取り組むべき戦略などを示すもので、期間は5年間になります。

基本目標	関連分野*	成果指標	現状値 (R1年度)	目標値 (R7年度)
 基本目標1 豊かな地域をつくとともに、安心して働けるようにする	産業、商業、労働環境、農業	従業員1人当たりの付加価値額	1,194万円 (H30年度)	1,230万円
		就職率**	7.6%	9.0%
 基本目標2 本市とのつながりを築き、新しい人の流れをつくる	観光、まちのにぎわい、情報の共有	社会増減数	▲48人	▲22人
 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	子育て、まちのにぎわい	合計特殊出生率	1.19	1.60
		婚姻数	315件	360件
 基本目標4 人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる	防災、文化、スポーツ、道路・交通、行政活動	住みよさランキング	287位	200位以内

※ 関連分野は基本計画の分野と連動しています

※ 就職率は館林公共職業安定所調査の市内職就率(就職件数/月間有効求職者数)

館林市第6次総合計画【概要版】

令和3年3月

館林市政策企画部 企画課

〒374-8501 群馬県館林市城町1番1号

TEL 0276-47-5102・5103 FAX 0276-72-3297

